

～学校と家庭の連携で子どもたちに「確かな学力」を！～

早くも6月が終わろうとしています。今年は春に体育会・自然学校などがあり、先週は授業参観と慌ただしい学校行事も続きました。さまざまな行事を通して子どもたちは大きく成長していく様子が伺えます。このように子どもたちのよりよい成長を願うのは、学校も保護者の皆様も同じです。

「確かな学力」を身につける場合は、何といても学校です。学校では、日々の授業を通して、基礎・基本とともに課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力などを身につけさせようとしています。子ども一人一人に力をつけるために、教員は自身の授業力の向上を目指して研修を重ね、「分かる授業」を実践しています。

「確かな学力」を身につけるためには、授業の充実とともに、**家庭での子どもの生活習慣や学習習慣などの形成が重要**です。よい生活習慣や学習習慣は、学力の要素である「学習意欲」や「ねばり強く課題に取り組む態度」を支える基盤となるのです。家庭学習の中で宿題や予習・復習という形で学習を補うと、学びが連続し、学習内容が確実に定着します。

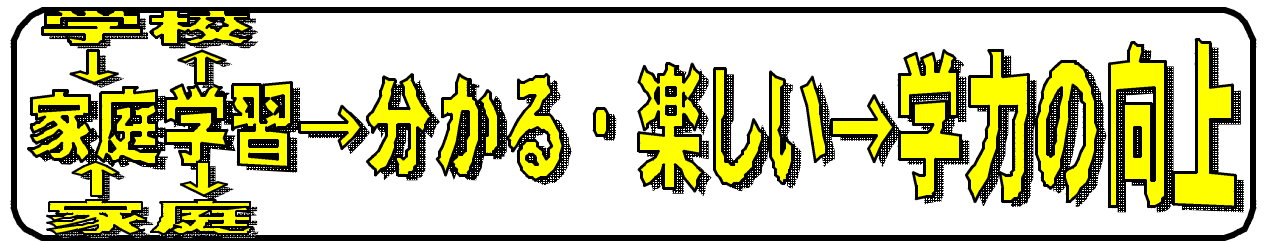
家庭学習の習慣化のためには、子ども自身の努力はもちろん、学校と家庭が、連携・協力して取り組むことが大切です。学校も家庭も、それぞれの役割を十分に理解しながら、子どもたちのよりよい成長のために、**いっしょに家庭学習習慣の確立に努めていきましょう。**

○家庭学習の内容は？

- 宿題 (学校から出されたもの)
- 予習・復習 (予習：明日の授業範囲の中で、わからないこと・疑問に思うことを明確にする。教科書を読み、わからない言葉の意味を調べる)
 (復習：今日学習したノートを見ながら、もう一度やってみる。自分なりのまとめ方でノートにまとめる。)
- 興味・関心のあることを追求する自主的な学習
 与えられた課題をこなす学習から、自分で目標を設定し、それに向けて取り組む学習へと進んでいきましょう。

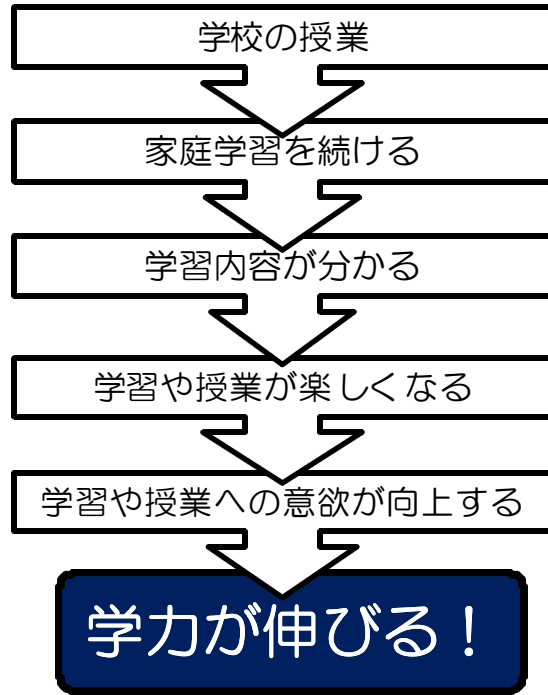
○家庭学習時間のめやすは？

- 「学年×10分間」以上
 内容や方法によって時間は違ってきます。自分に合った時間を決めてやりましょう。



～地道な学習・継続的な学習が学力を向上させます～
 *家庭学習を続ける人、おろそかにする人では、こんな違いが現れます！

＜家庭学習を続ける子どもは＞

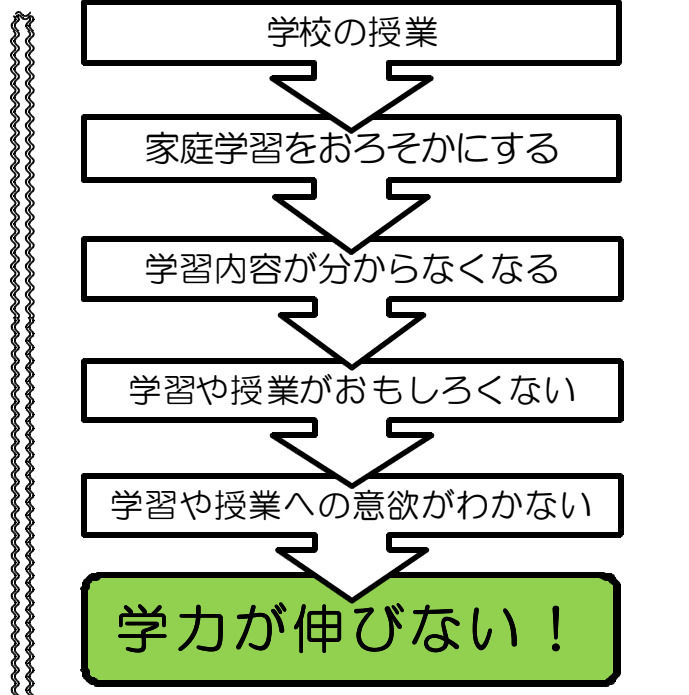


—「家庭での学習の様子」と「学力」との関係—
 「出された宿題をきちんとやっていく」「予習や復習などをしている」児童は学力が高くなると言えます。

つまり、家庭学習の習慣は、学力に影響してくるといえるのですね。



＜家庭学習をおろそかにする子どもは＞



復習しないと、学校の授業で身につけた学習内容を忘れてしまいます。ドイツの心理学者であるヘルマン・エビングハウスの研究の中に「記憶の忘却曲線」があります。人間は記憶した内容を時間とともに忘れてしまうのです。

